

令和5年度第2回恵那市ICT活用推進委員会 議事録

日時：令和6年3月28日（木）午後1時00分

場所：恵那市役所西庁舎3階災害対策室A・B

1. 開会
2. 議事
  - ・第2期恵那市ICT活用推進計画の進捗について
  - ・ICTインフラ整備事業について
  - ・意見交換
3. 閉会

■委員

	選出区分	団体名	氏名
1	学識経験者	法政大学理工学部	藤井 章博（オンライン）
2	学識経験者	法政大学大学院	山崎 泰明（オンライン）
3	商工団体	恵那商工会議所	古山 紀昭（欠席）
4	商工団体	恵那市恵南商工会	加藤 博靖
5	教育団体	恵那市小中学校校長会	安藤 一博（欠席）
6	教育団体	恵那市PTA連合会	水谷 生余己
7	防災団体	恵那市防災研究会	岩井 慶次
8	福祉団体	恵那市社会福祉協議会	紀岡 伸征
9	その他団体	恵那市地域自治区会長会議	平林 道博
10	副市長	恵那市	大塩 康彦

■DX推進監

1	情報政策課（ソフトバンク株式会社）	竹内 武司（欠席）
---	-------------------	-----------

（事務局）情報政策課 小林、鈴木、古田

■傍聴者 0名

## 1. 開会

■事務局 定刻となりましたので、これより令和5年度第2回ICT活用推進委員会を開会いたします。本日の委員会ですが、会場とオンラインでの併用開催となっておりますが、委員8名（会場6名、オンライン2名）のご出席をいただいております。

また古山副委員長、安藤委員、竹内DX推進監の3名よりご欠席の連絡をいただいておりますので、よろしく申し上げます。

また会議の公開及び公表については、「恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、原則公開とし、会議録につきましても公表させていただきますので、よろしく申し上げます。

会議の進行につきまして、会場とオンラインでの併用開催となっておりますので、ご面倒をお掛け致しますが、ご発言される前に、お名前を言っていただいておりますので、ご発言をお願いいたします。

オンラインで参加の委員の皆様は、カメラは常時オンにしておいていただき、発言以外のときは、音声はミュートでよろしく申し上げます。

これより次第に沿って進めさせていただきますが、議事に入る前に藤井委員長から一言ごあいさつをいただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

■藤井委員長 時間調整に応じていただきまして、誠にありがとうございます。それから私の不手際で、ちょっと実際そこに行くつもりがオンラインになってしまい、今日は申し訳ございませんでした。日本経済の話ですが、株価が上昇して、まだまだ物価上昇とかインフレなどの不安がありますが、日本経済から活性化していくと、気が違うのではないかなと思います。それからご存じのように、2022年度から2023年度、生成AIというものが、活性、活用が本格化してきている。我々のような情報工学の分野の人間にとっては、特に目新しい変化ではないですが、来るものも来たと言うような感じだった。これで社会的認知が進むことによって、一気にこの利用についてのそのニーズが高まっていることがあるのではないかと思います。そうすると、それが当然、地方社会、恵那市の行政などにも、強く影響してくるのではないかと。委員会といたしましても、ぜひそのような流れ、経済の活性化とか、それから新しい情報技術の活用というものの面を一度よく生かして、市民の皆さんの利便性向上に資するように努力してまいりたいと思います。皆さん、ご協力のほどよろしくお願いいたします。それでは、事業の取り組みの状況から、事務局にお渡ししますので、ご説明よろしく申し上げます。

## 2. 議事

- ・第2期恵那市ICT活用推進計画の進捗について
- ・ICTインフラ整備事業について

〔事務局から資料に基づき説明：施策の取組状況、主な事業の進捗状況など〕

■藤井委員長 簡単な質問いいですか。このシステムは、音声エンジンの部分と多分インターフェースの部分と両方別々のものかなと思うのですが、独自に恵那市で開発したものでしょうか。

■事務局 日本郵便株式会社の既存システムをベースに、恵那市の環境に合わせてカスタマイズしたものになります。

■藤井委員長 はい、ありがとうございました。

〔事務局から資料に基づき説明：スマートスピーカー活用事業〕

■平林委員 スマートスピーカーの活用事業ですが、目標値のところ、結局状況も矢印しかないですよ。それはその目標値がそのアウトプット目標になっていて、209世帯を実施すればそれで済みという目標ですよ。だから、全然、その事業を継続することによってそのアウトカムが設定してないですよ。だから、実際にはこの活用事業をどのように利用したかよというその履歴みたいなものは、機械に蓄積されていくのですか。お知らせを見たとか、それから、ここに様々な天気予報を確認したりもできるわけなので、天気予報を確認したら、天気予報確認したということが、残っていて、活用状況がやっぱり1つのアウトカムの目標になっていかないと209世帯に運用しましたよって、それで目標は終わりで深まっていかない。そういう目標はあるのですか。

■事務局 ありがとうございます。今回設置の目標になっていますが、どれだけ使ったかとか、どれだけ見たかっていう履歴はレポートとして残ります。今後、その数値、利用、活用度とか、また今後アンケートを実施し、満足度を測っていきます。この事業は、国のデジタル田園都市国家構想交付金という補助金を活用して取り組んだ事業でもありますので、国への報告の中にその辺の項目も報告する必要がありますので、当然合わせてこの進捗のところにも目標の設定としては今後加えていきたいなという風に思っております。ご指摘ありがとうございます。

■岩井委員 今、平林委員さんが言われたところは大事で、行政っていうのは、ハード整備のところ。ソフトウェア、ハードウェアなど。その部分じゃなくて、やっぱりヒューマンウェアの部分、人がどう関わるかというところが一つ大事だと思います。要はアウトカム、恵那市の人がどうなったから、合格というところが最終的な目標。今の部分というのはアウトプットの部分だけ。これからやっぱり行政というのはそこまでぐらい考えていかないとダメという指摘だと思います。それから、通信インフラは何を使っているのかお聞きしたい。それから、導入、稼働はどのような効果があったかというところ。先ほど、平林委員さんが言われたところのところをしっかりとっていただきたいなと思います。それから、さっき配信という言葉が聞かれたのですが、我々住民側は配信関係ないですよ。自分の欲しい時間帯に自分の欲しい情報を取ると。配信じゃないですよ。配信やったらもう放送でいいわ

けですよ。垂れ流しの放送で。そこをやっぱりちょっと考えてもらいたい。言葉を考えてほしいなという風に思います。警報なんかはある程度、垂れ流しで避難指示出しますよ、というのはいいと思いますけど。ちょっと1つだけお話しておきたいのは、個別避難計画を作るのですけども、そのみんなが避難じゃないよってということです。

みんな避難といったら避難という、逃げなさいというようにすり込まれているけど、逃げなくてもいい人もいるわけなので、その辺の扱いもちゃんとやってほしいなど。

■事務局 ありがとうございます。通信インフラは何を使用しているかという、基本的に飯地町に関してはアミックスコムがほとんどです。中にはアミックスコム以外を個別で契約している家庭もあるかもしれないですが、ほとんどがアミックスコムです。続いて個別避難計画の関係ですが、避難しますかと書いてありますが、岩井委員さんが言われるように、避難しますかでもいいのかとか、その辺も含めて危機管理課と議論させていただいている。

■岩井委員 避難しますかと聞かれると、避難しなければいけないのかなというように、自宅が安全だけど、避難しますかと聞かれると、避難しなければいけないのかなと出てきてしまうということ。

■事務局 その辺の伝え方、言葉1つでガラッと変わってしまうところがあるので、危機管理課とも調整しながら、伝え方のところも含めて検討していきます。

■岩井委員 言うなら避難と言うのではなく、避難計画に基づいて、あなたはどう行動しますかとか。

■事務局 そうですね。ありがとうございます。

■岩井委員 そうでないと本当に皆さん途中で流されてしまう。それと、こども園の関係は。これもアウトカムがしっかりしてない。7つの事業は上手くいっている、あと3つ残っているとところで70パーセントの事業という話はあったのですが、どういう項目、どういう目標に対して今合格とか、それを出してもらった方がいいのかなと思います。細分化をしていただいて。

■事務局 実際に種類だけじゃなくて、例えば業務時間短縮できて、保育本来の関わる時間が増えたかというのを取らないといけないなと思っています。当然、使い勝手とか、園によってなかなか使えないとか、すごく使えるとか。バラバラなので、その辺の満足度とかというところも含めて同じように取っていないといけないのかなと思っていますので、次回報告させていただく際には、その辺の設定もさせていただいてご報告をしたいなと思っています。

■岩井委員 保育士さんはどういう端末を持っていますか。職員室に来て、打つということよりも、タブレットを持っていて、そこで入力が出来たら、子供見ながら出来ますよね。そのような環境はどのようになっていますか。

■事務局 実際にこども園に配布している端末はiPadとなっています。園内どこでもネットワークに繋がるので、その場で画面タッチか、あるいは記録を入力する際は、外付けのキーボードも配布してありますので、そちらで入力してもらうこともあります。

■岩井委員 現在 7 つの項目はそのようにおこなっていると。実際に使用している保育士さんからは、不足はないということか。

■事務局 まだレベル感というか、温度差はありますが、すごく使っている園に関しては、もう前に戻れないというか、戻りたくないなっていうところは聞いています。今、懸念材料というところが、念のために紙も併用している園があるので、そこに関しては、かなり負担になっているところも把握をしています。その部分を紙からデジタルの方に置き換えてやっていかないと、負担が増えるだけとなるところなので、幼児教育課からその辺の研修も含めて調整していただいている。

■紀岡委員 こども園のところですが、対保護者のところの、登降園 QR コードリーダーとか欠席連絡、お知らせ配信、この辺りはもう稼働しているか。問題なく活用できているか。

■事務局 問題なく活用できていると思います。

■紀岡委員 それからスマートスピーカーについて、独居高齢者の見守りについてなんですけども、民生委員さんが月に 2 回直接訪問して、独居の方の見守りをしているのですが、一部の独居の方については、緊急通報システム設置されているお宅もあると思うのですが、その辺りの緊急時の対応とか、そういうところが、今後の運用である程度ルールとかよく決めていくのではないかと思うのですが、実際まだ本格稼働はしてない。

■事務局 そうですね。本格稼働はしていません。

■紀岡委員 その辺のことも含めて、効率的な運用というか、見守る方にもしっかり情報が行くような運用がされるとありがたいなと思うのですが、今後検討されていくのか。

■事務局 そうですね。おっしゃられる通りで、緊急通報システムを設置している世帯とかもあります。そこも当然参加していただいている、実際煩雑になってしまうというところもあるので、その辺も民生委員さんと連携を取りながら、優先的にやるところも含めて、高齢福祉課とかも関係ありますので、スムーズに運用できるようにやっていきたいなと思っています。現在飯地町で独居高齢者世帯が 34 世帯あります。そのうちの 28 世帯が、この事業に賛同していただいて、スタートしています。

[事務局から資料に基づき説明：主な事業の進捗状況、ICT インフラ整備事業、デジタル田園都市国家構想交付金申請・AI ドリルアプリ導入]

■平林委員 恵那市の子供の学力が低いのは、それは全くその通りなのですが、その原因が、その家庭学習の時間が少ないという風にと家庭での取り組みが少ないという風に行ってしまうと、要するにドリルでやるわけですね。家で復習しなさいということですね。もっと根本的に学力が上がってないのは、やっぱり授業の、例えば AI とか ICT を授業の中で活用していくことによって授業そのものを変えていかない限り、このようなことをやっても、例えばアウトカムの指標で書いてありますけど、上がるとは思われないのですけど、どうですか。塾と一緒にやらないですか。結局、個別学習させて、家に帰ったらパソコン

向かってやってということですよ。

■事務局 塾と一緒に部分はあると思います。逆に言うと、その塾自体も恵那市としては少なくなっているという現状も、何か課題を打っていかないといけないという意味も 1 つありますし、もちろん子供たちがそれぞれ自分たちで学習することにおいても、この AI を活かして 1 人 1 人がその自分たちに合った学習をできるということが 1 点もあるのですが、もう一方としては、教員がその子供たちの学習データ、どこが分かっているのか分かっていない状況をこのデータとして、客観的な指標を今までよりもリアルタイムに、授業を受けたその日に、授業に対して子供たちが分かっているのか分かっていないのかということ判断し、翌日の授業につなげていくということができると、教員としても、子供たちが分かっているのかということ、今までのようなテスト、1 学期ごとですとか、そういったテストにおいて振り返るということだけじゃなくて、もっとサイクルを早く回していくことができるので、そういった意味でいくと、学校での授業の中でもこの AI というものは十分に活かしていくことになることになるという風には考えています。

■平林委員 子供たち 1 人 1 人がその 1 時間の授業でわかったかどうかは、一般的な教員なら授業の終わりにやります。

■事務局 もちろん、その振り返りということは確かにしています。ただ人員不足ということもあり、教員 1 人 1 人のレベルが昔に比べて下がっていることは事実言われておまして、そういった意味で、若手の教員が来てその授業を受けて、生徒のリアクションを見て、本来であればそこで、授業の最後の振り返りで、ちょっとわかってないな、理解が少ないなことで、次の授業に生かしていただくと 1 番いいですけども、そういったものもなかなかやっぱり学習、指導の歴が浅い教員ですと、その経験であるとか技術ということもなかなかないので、そのようなところをサポートする上で、このようなデータ、EBPM と言われるようなですね、本当はエビデンスに基づいた教育行政の授業というものをやる 1 つとして、今回これはいいのではないかと風にかけておきます。

今、学校の中でも、本当におっしゃられる通りで、塾と一緒にするのはいけないというところは確かにあります。学校の授業の中でも、ICT を活用したその教材とかツールというシステム的なものが入っていて、使ってもらっています。そういったものもありますけども、学校の部分も当然やっていかないといけないし、家でもアプリ使ってこうやってもらいたい、そういったところで学力を上げていきたいなというところで取り組んでおります。今回この出した部分に関しては、そのドリルという家庭で使うような部分だけの申請になりますので、当然学校の部分の授業の中はどうだということもありませんけども、順番にいろいろなアプリとか教材、デジタル教材とか活用しながら取り組んでいきたいなと思っています。

■平林委員 それでは楽しみに期待しています。

■岩井委員 確か多治見の北稜中だったと思いますけど、授業が終わってから、自分で学習するというコーナーもあって、かなりそういうところで落ちこぼれないように頑張っ

いるという子供たちの姿も見たことあるのですけども、教室ばかりじゃなくて、そういう付帯する、自学スペースみたいなところも建設できるといいのかなと思います。

■平林委員 ちょっと問題がそれるかもしれないけど、佐賀県の高雄市では、反転授業というのをやっていた。1人が1端末持っているから、家でその学校来て、教員が教えたことを考えるのではなくて、例えばビデオ持って帰って、これを見て自分で疑問に思うことや考えてみたいことを持って授業に参加しなさいと。教員の説明から授業が始まるのではなく、授業の始めは反転と言って、子供たちの質問や疑問を出すところから一通り家で勉強してきなさいと。教員から教えてもらったのをもういっぺん復習して覚えるなんてことじゃなくて、この教材をやる時に、どんなことが課題に思うかとか、何が分からないかとか、1人1人が全部今日の授業の中に持っていくわけ。そこからスタートするという授業をやって、その結果どうなったか知りませんが。そんなふうにしてやっぱり発想を変えていかないと、知識や技能、今この学力調査も、本当に知識とか技能、理解とかそういうことじゃないですよ。思考力とか判断力とか、問題そのものを見てわかると思うのですけど、教科書をしっかり覚えたらできるという問題はなくて、考える力がついてないと解けないですよ。ですから、そういうことを、思考力や判断力やそういうことを養うような授業にしていかないと。ただ、その教科書をやったことを家帰って復習し、学習時間が足りないからとか、塾行っていないのかというふうな、あまり前向きじゃないというか、もっとどういう力をつけてからこの恵那市のこどもの学力が伸びないのかというところ。学力検査はやっているでしょう。質問手法とか。恵那市の子は、他地区に比べて学習時間が少ない、家での取り組み時間少ないですか。

■事務局 はい、少ないです。また、主体的にこの学びに対しての姿勢というものに関しても、課題としては見られておりますので、そうしたところをつけていくためにも、まず、基礎学力というところは、全ての学びの姿勢に関しては通じる部分がありますので、まずは、自分たちの自己肯定感を高めるためにも、確実にこの分かりやすいテストというところで、点数を取れるということも、1つ自己肯定感を高める要因としては、手段としてはなり得るのかなというところで、こういうアプローチももちろんさせていただきたいと考えております。

■平林委員 授業感の違いだと思いますが、主体的な学びを作るのがその授業だと私は思うのです。家庭でそのAIを使って主体的な意欲的に学ぶ子が育つなら、みんな日本全国にやると思う。

■事務局 そうです。授業もですが、やはり家庭学習も、授業もあって初めて学習サイクルを回す必要があるのではないかとこのところでやらせていただいております。やはり授業の方も、もちろん今まで以上に子供たちの様子を見ながら、子供たちにより適用した最適化された学びというものを提供していく必要があると感じております。

[事務局から資料に基づき説明：デジタル田園都市国家構想交付金申請

・人工衛星を活用した漏水リスク評価事業]

■岩井委員 市の排水管の総延長は何kmですか。

■事務局 950 kmです。

■岩井委員 それで本管が分かるということですか。

■事務局 そうですね、本管ではなく給水管になります。漏水をしている可能性が高い場所、ここら辺の危険だということ所で判定が出てくるという状況になりますので、そこから重点的に調査を行うものになります。

■岩井委員 ということは、無駄な調査が減るということですか。

■事務局 そうですね、今までは広く調査していたものを、それをやめて、絞ってその調査したいということです。

[事務局から資料に基づき説明：デジタル田園都市国家構想交付金

・コンビニ交付事業、指標と目標値の変更など]

■平林委員 スマホ教室のところで言われたように、受講者に変えるのですよね。それはいいです。受講者数を増やしたいけど、さっき言われた中で、やはりニーズとのギャップということを言われました。私も、より使いこなしたいなと思って、「広報えな」で案内を見るけど、やはりちょっと初歩的すぎて。例えば私が困ったのは、プレミアム付き商品券の電子の方がいいので、やろうとしたけど、つまずいてしまい、結局紙ベースで買った。ニーズが、なんか使うとことでないと、スマートフォンを使うという、現実的に、そのような講座の内容にしないと、入力仕方とか、そういうのでは、あれだ思うのですよね。ソフトならソフトでもいいので、なんか面白そうなソフトがあったら、こんなソフトが使えるようになりますかとか。例えば PayPay とか。私の地区には、コンビニがないので。そういうことだ思うのです。なんか実用的というか、駅なんか行くと、もうみんな、切符買っている人は、もう 1 人もいないですね。

■岩井委員 恵那市の施策としてなぜスマホ教室を開かないといけないですかと質問しました。結局そこ、例えば平林委員がおっしゃるような初歩的なところは、民間の NPO さんとかそういった方にやってもらってもいいわけですよね。例えば市民講座もやってもらうとか。恵那市としては、今、副市長さんとか平林委員さんがおっしゃるように、実際この恵那市の施策として、これは絶対やらなアカんと。それをちゃんと打ってやった方が使い勝手や利便性もいいし、上がってくると思う。

■事務局 ありがとうございます。スマートフォン教室というと、初歩的なものから始まってというような、固定概念的なものがある。今お二方がおっしゃられた通りで、何のために

これをやるのかというところで、それこそ平林委員さんが言われたように、商品券使いたいという、もっと使ってもらいたい、そのためにこうやるとかという、その目標というか、見定めが甘い部分があるから、ミスマッチというのが生じてくるというのは、過去2年間やってきて、初歩的な部分で、初めてのスマートフォンとかという講座内容になるとはぼいがないとか、やっぱりそこに働きかけても当然届かないなというのはわかってきた。今後はその辺を十分検討しながらやっていきたいなと思います。

■大塩副市長 また商品券事業があるので、その前にちょっとやるといいかもしれない。

■加藤委員 私、実は当事者で、商品券事業の担当者ですけども、ICT活用推進委員会とちょっと連動してなかったということがあって、それは反省点で、私も持ち帰りたいと思います。スマホアプリの使い方とか、中の分かりにくさというのは実行委員会の中でも出ており、改善するように今向かっています。年配の方が使われるらくらくホンは、対応ができないという現実がありましたものを、今少しずつ対応ができるようにという風に改善は今進んでいますけれども、それは、この委員会の話ではもうちょっと連携をさせていただけるように、説明会をするのであれば一緒に行かせれば良かったなという風に本当に思います。

■事務局 ありがとうございます。商品券の使い方とか、登録の仕方のニーズが結構あったというのは承知していますので、そこら辺もこちらでもできればよかったですと思います。

■加藤委員 個別に実行委員会側で市役所ですとかバローさんの2階ですとかでやってはいるのですが、連携は全くしていないので、多分そんなに皆さんには周知されてなかったのではないかと思います。

■事務局 ありがとうございます。

■大塩副市長 プレミアム商品券のやり方が初年度で結構つまずいて、そしてかなり変わって使いやすくなったけど、まだちょっとハードルがあるので、また次のステップに移行しつつあるので、よろしくお願いします。

■事務局 ありがとうございます。

#### [事務局から資料に基づき説明：高校生 IT チャレンジ]

■平林委員 これは今年度だけじゃなくて今後も継続してやっていきますか。

■事務局 はい、今後も継続予定です。

■平林委員 やっぱり高校生とか大学生とか若い人の知恵とか、行動力とか持っているの、こういう地域課題の解決のために、すぐに直接的にいい解決策が見つかるとは思えないけれども、若い人たちが一緒に考えてくれたりすることは、まちづくりにとって活力が出ると思うのです。ですから、ぜひ、とりわけこういう IT の部分は若い人たちの得意分野だから、そういうところを巻き込んでいけるといいなっていうこと思いました。ぜひ継続していただけたらと思います。

■事務局 ありがとうございます。

■紀岡委員 公共施設予約のオンライン化で、社会福祉協議会も福祉センターとか指定管理を受けるのですが、まだこれに取り組めてなくて。市の直営でやっている施設はほぼオンライン化されているのかどうかというところと、あと今後そういう委託している事業所等にこの辺を推進していくかどうかというところだけ教えていただけたらと思いますが。

■事務局 公共施設の全ての施設で出来ているわけではございません、今 57 施設が登録できる状態というところで今運用しています。まだ課題がありまして、実際に全ての施設でオンライン施設予約ができるかというところと、まだ課題が残っている部分があります。公共施設でもたくさんありますので、その中で、実際に予約されて利用すべき施設というのが区分けできてなかったりするところもあります。一般的にスポーツ施設などの体育施設というところは、市民の方が直接利用する機会が多いので、それ以外の施設、細々した施設がたくさんありますので、そういったところを全てオンラインで予約したらどうかというところは、実際に課題になっているところがあります。

■紀岡委員 実際に高齢者の方がかなり使われると思われるので、スマホ教室で取り組むとか。

■事務局 やはりスマホ教室についても、実際に実用的な運用で、触って、実際にこれをしてほしいからこういったのを教えてほしいというような教室ができれば、それこそこちらとセットでできてればなというところがありますので、来年度もまたスマホ教室を開催していきますので、そういったところを連動しながらやってこうかと思っております。

■岩井委員 この会は ICT 活用推進委員会ですので、やっぱりペーパーレス会議にするべきだと思います。

■事務局 来年度の開催にあたって、なんとかペーパーレスにしたいなという風に思っております。どういう形でペーパーレスにしていくかというのをちょっと検討しないといけない部分はありますけども、なるべく紙使わないような形の開催を目指していきたいなと思いますので、色々ご協力とかお願いとかすることがあるかと思っておりますけども、どうぞよろしくをお願いします。

■岩井委員 端末をお持ちじゃない方はお借りしてくらいでいいと思います。

### 3. 閉会

■事務局 大変長時間にわたりありがとうございました。色々不手際があり時間も押ししてしまった部分もあります。今回たくさんご意見いただきまして、今後の参考にしていきたいと思っております。また今後ともお力添えいただければありがたいです。それでは第 2 回 ICT 活用推進委員会をこれにて終了したいと思います。ありがとうございました。

[ 閉 会 ]